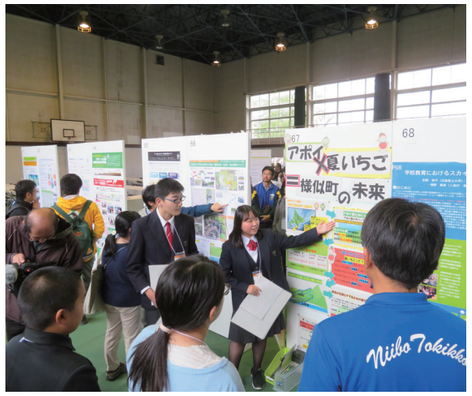
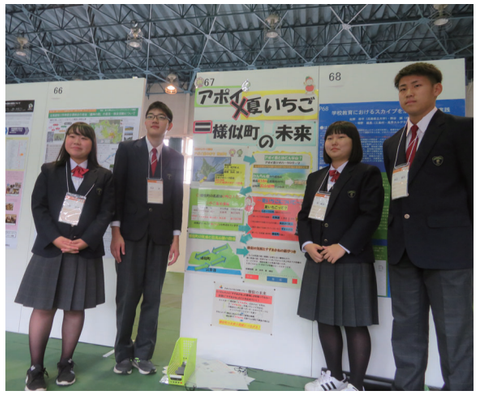
アポイ岳ジオパーク トピック&ニュース Mt. Apoi Geopark Topics & News ジオトピ

様似中学生４人が堂々と発表しました ～ジオ全国大会～

11月2日～5日





毎年、日本各地のジオパークで行われている日本ジオパーク全国大会。第10回の記念大会の今年は、11月2日（土）～5日（火）に大分県において開催され、アポイ岳ジオパークからも様似中学生やガイド、事務局らが参加し、成功事例の共有と相互交流を図るとともに、昨年のアポイ岳大会のお礼を述べてきました。

事例発表の形態の一つであるポスター発表では、3年生の小西咲希さん、岸唯央さん、崎広健将さん、寺井漣さんの４人が色鮮やかにまとめたポスターの前で、全国のジオ関係者に様似の地質や自然と産業とのかかわりなどを堂々と説明していました。

このポスター発表は、今年から小中一貫の総合的な学習プログラム（小３～中３）としてスタートした「ふるさとアポイ学」のゴールに位置づけているもので、事務局では教育委員会と連携しながら、子どもたちの自ら学ぶ力をつける取組みとして今後も続けていくこととしています。

自分の目指す「ガイドスタイル」を考える

10月7日～8日

毎年、道内各地で行っているジオパークガイドの研修会が10月7日（月）～8日（火）、洞爺湖有珠山ジオパークで行われ、２つのユネスコ世界ジオパーク（アポイ岳・洞爺湖有珠山）をはじめとする７地域の66名が交流と研修を行いました。アポイ岳ジオパークからも認定ガイドと事務局10名が参加。研修会では、テーマに分かれてツアー体験した後、ツアーの振り返りやそれぞれが抱える課題などをワークショップ形式で議論し、お互いの情報や考えを共有しました。

アポイ岳ジオパークでは今年、23の団体個人145名の観光客を有料にて案内しました。事務局ではこうした研修を通じてガイドのスキルアップを図り、来年以降もより多くの観光客を迎え入れたいと考えています。

お隣のえりも町のみどころを知る

10月26日

10月26日（土）、バスでえりも町を巡るふるさとジオ塾「えりも町のみどころ・ジオどころ」が行われ、町民ら16名が参加しました。昨年の日本ジオパーク全国大会のポストツアーの一つとして催行したものを再現したもので、町内に限らず地質的にもユニークなえりも町の資源を発掘し、今後のツアーやガイド案内に生かそうと行ったものです。一行はあいにくの雨模様の中をえりも町郷土資料館やえりも岬、豊似湖などを巡りながら、日高山脈の成り立ちやえりも岬の地形の話、百人浜の緑化事業など、えりもの自然と文化を再認識していました。

アポイの花とチョウをよみがえらせたい！

11月15日、22～27日

町では、平成28年度からアポイ岳高山植物群落再生事業を進めており、その一環として登山道沿いのゴヨウマツやハイマツの大規模な伐採作業を行いました。これは、岩場を覆い尽くすようになったゴヨウマツやハイマツを取り除くことで、高山植物と天然記念物のヒメチャマダラセセリの復元を目指すものです。

11月15日（金）には５合目から７合目までの登山道わきのゴヨウマツを、22日（金）～27日（水）には７合目登山道の西側のハイマツを伐採しました。

作業は、事業を主導するアポイ環境科学委員会やアポイ岳ファンクラブにより進められ、伐採による効果はある程度実証されております。町と同委員会、ファンクラブでは今後の花とチョウの復活に期待を寄せています。

様似町の続縄文やアイヌ文化を紹介しました

11月19日～12月1日

「いにしえ、そして今～冬島遺跡の発掘成果からアイヌ文化～」と題したパネル展が11月19日（火）～12月1日（日）、中央公民館ギャラリー21で開催されました。続縄文文化期の遺跡である冬島遺跡から様似の地名・風習に影響を与えたアイヌ文化期までの様似の歴史の流れを広く知ってもらおうと、アポイ岳ジオパーク推進協議会、町教育委員会、国立アイヌ民族博物館設立準備室の共催で行いました。

パネルによる続縄文～擦文～アイヌ文化という時代の流れの紹介や、冬島遺跡からの出土品やアイヌの民族衣装、マキリなども展示しました。また、来年４月に白老町にオープンする国立アイヌ民族博物館を紹介するPR展もあり、見ごたえのある内容に訪れたかたは熱心に見入っていました。